

第2章 評価の結果

本評価結果は、平成22年度第1回国土技術政策総合研究所研究評価委員会における審議に基づき、とりまとめたものである。

平成22年8月27日

国土技術政策総合研究所研究評価委員会
委員長 森杉 壽芳

【総合評価】

「平成21年度の国総研における研究活動について」は、主要な研究活動、施策への反映、技術支援活動等について十分な活動があり、概ね順調であったと評価する。なお、研究内容の発信に際しては、アウトカムの考え方で国民に分かりやすい表現となるよう、更に工夫されたい。

「今後の研究の進め方について」は、提案のとおり、広い視野あるいは長期的視点から研究に取り組むことは重要で、そこから問題提起につなげられたい。

以下に列挙する各委員からの指摘事項も参考に、国総研の使命を今後とも果たしていくことを期待したい。

【委員からの指摘事項】

■ 今後の研究マネジメントのポイントについて

- ・是非提案の方針でやってほしい。
- ・データの管理・分析にとどまらず、総合的なデータの収集など視野に入れるべきである。
- ・行政部局に対するコンサルティングが大事であり、それを上手く表現し評価する方法を考えてはどうか。
- ・現場の課題にただ対応するというのではなく、現場からの研究ニーズを見つけ、研究の材料やフィールドを得ると考えたら良い。更に依頼された仕事の範囲を超えて、もう少し長期的あるいは広い立場から答えを返すようにすると視点が広がるのではないか。

■ 研究成果の発信について

- ・せっかくのすばらしい研究が分かりにくいので、研究とアウトカムをもう少しわかりやすく表現することが必要である。
- ・研究成果と国民生活との接点の説明が不十分である。社会的な課題の解決に向けた取り組みの全体像の中で、当該研究の範囲や他の関連する施策等との関係を明示することが必要である。
- ・国総研ホームページはバナーが多く決して見やすすくない。「研究成果資料」は開くといきなりテーマの羅列で、何に貢献する研究かなどが分かりにくく、研究開発で得られた膨大な知見・知識の社会的な共有化を図るといった観点からの工夫が必要である。

■ 国総研の役割について

- ・国総研と独法の研究内容の違いを説明するには提示の図では分かりにくいので、表現に工夫が必要である。

■ 国総研の予算・組織について

- ・ 研究員と行政職員の推移は、厳しい中研究員を確保していることに敬意を表したい。予算について、本来的に国総研に配分される予算が少ない。また、事業費関連のものが減っているという状況である。事業費が減っているときこそ、賢く選択する必要がある。
- ・ 毎年の予算が減ってきているが、本当の研究にもどるチャンスと考えたらよいと思う。そのときに、1割程度の自主的な研究費を位置付ける工夫が必要だと思う。
- ・ 事業費による研究と行政部費による研究の関係や、どのように連動しているかなどを整理して説明して欲しい。